慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	新語"老齢"の誕生と定着：中国語"老齢化社会"普及の要因を探って
Sub Title	On the establishment and spread of the new word "Laoling": investigating into the factor in the popularization of the Chinese word "Laolinghuashehui"
Author	赤平, 恵里(Akahira, Eri)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2007
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.92, (2007. 6) ,p.147(148)- 169(126)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00920001-0169

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新語“老齢”の誕生と定着

― 中国語“老齢化社会”普及の要因を探って ―

赤平　恵里

1．はじめに

近年、日本では、65歳以上の高齢者の割合が人口の20％と高まっており[1]、重大な社会問題となっている。日本語では、このような現状を指し、一般に「高齢化社会」という言葉が用いられている[2]。一方、隣国中国も同様の社会問題に直面しているが、中国語ではこれを“老齢化社会”と呼ぶ[3]。では、なぜ中国と日本では同一の現象を指すにあたり、このように二つの異なった表現が用いられているのであろうか。

そもそも日本語と中国語の間には同形語[4]というものが存在し、「市場経済」・「暖冬」などのように、同一の現象を指す際に用いられることがしばしばある。しかし、上述の人口問題に関しては、日・中でそれぞれ「高齢化社会」・“老齢化社会”という異なった表現が用いられ、同形語が用いられていない。すると、その背景には、何らかの特別な理由があったのではないだろうか。そうだとすれば、その背景を検討することによって、どのような場合に日中同形語が成立しないのかを考察できるはずである。逆にいえば、日中同形語の成立条件を検討することもできるのである。

そこで本稿では、“老齢化社会”の中の“老齢”に焦点を当てる。“老齢”という語については、既に老年学の分野で検討がなされているものの、その論点は“老齢”が老年学の学術用語として適当か否かにあり[5]、

管見の限り言語学的視点から実例をあげて分析したものはない。したがって、『人民日報』[6]のデータベースを主に用い、言語学的な観点より“老齢”の誕生背景・流布状況などを考察する。加えて、“高齢”との比較を通し、中国語において“老齢化社会”という語が定着した要因を明らかにしたい。

2．新語“老齢”の誕生

まず、“老齢”の誕生について検討する。現在常用されている“老齢”という語は、「老年。老齢。[7]」の意で、人の年齢に用いることが多く、版の古い辞典には収録されていない[8]。例えば、《现代汉语词典》[9]をみると、“老齢”は第1版（1978年）と第2版（1983年）には収録されておらず、1996年の第3版から登録されている。また、小学館の『中日辞典』[10]においても、初版（1992年）には未収録であり、2003年の第2版になって新たに追加されているのである。現に“老齢”は、新語辞典[11]に登録されており、そこでは1980年代の記事が引用されている。つまり、「老年。老齢。」の意味で人に用いられる“老齢”は、近年誕生した新語[12]なのである。なお、日本にも「老齢」という語があるが、これは1880年代頃には既に使用されており[13]、2007年現在にいたるまで「年をとっていること。また、その年齢。老年。[14]」の意で主に人の年齢に用いられている。

それでは、この“老齢”という語は具体的にはいつ頃から使われ始めたのか。前掲の新語辞典の用例より早い時期には用いられていなかったのだろうか。1946～1979年までの『人民日報』の用例を検索すると、表1のようになる。

表1.《人民日报》（1946-1979）の使用例

老齢	46-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79
	1	3	4	4	0	1	0

これより、1980年代以前にも“老齢”が使用されていたことがわかる。では、その用法は現在と変わらないのであろうか。（以下、太字強調は筆

者）

（1）**老龄**母树的种籽，一般都是粒小，比重轻，发芽率小，苗木生长不良，很容易枯死，不适于采种之用。（1949.10.16）
老齢母樹の種は、普通種が小さく、比重も軽く、発芽率は低く、苗木の生長も思わしくなくて、枯れやすいので、採種に適していない。

（1）は『人民日報』における“老齢”の初出の例である。これによると“老齢”は、人の年齢ではなく、植物の年齢、つまり樹齢を指す語として用いられている。一方、以下のような用例もある。

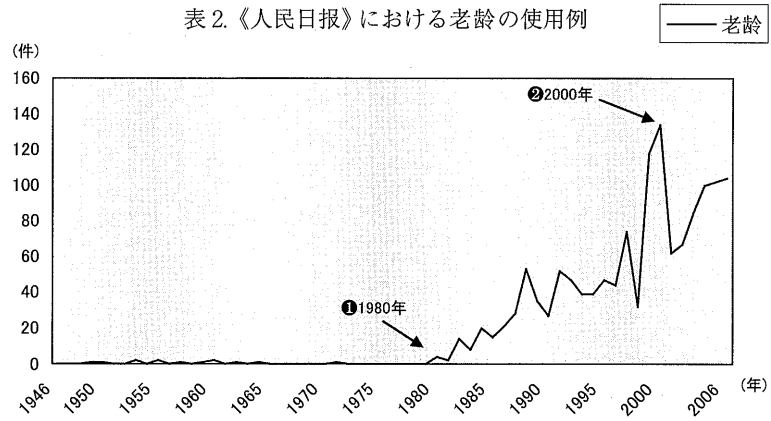
（2）这样培养出来的工程师比一般大学新毕业的知识分子更好，因为除了有同等的理论水平外，**老龄**工人培养成的工程师有丰富得多的实际经验，因而是更好的工程师。（1953.7.13）
このようにして養成された技師は一般の大学新卒のインテリよりずっと優れている。理論的な面で同レベルであるほか、**老齢**の労働者から養成された技師は実際の経験が非常に豊かなため、より優れた技師なのだ。

ここでは、“老齢”が初めて人の年齢を表す語として用いられる。しかしこれ以降、1979年までの間に“老齢”が人の年齢として使われることは一例もない。よって、（2）は例外とみなしてよいだろう。むしろこの時期の“老齢”は、（1）のように、植物の年齢を表す際に用いられており、1980年以前の用例全13件のうち、12件が“**老龄**林”（**老齢**林）・“**老龄**树”（**老齢**樹）・“**老龄**的棉铃虫”（**老齢**のワタミムシ）といったように植物や害虫などの年齢を表す言葉として用いられている。つまり、中国語では、日本語と同じように早い時期から“老齢”という言葉が使われてはいたものの、人の年齢を指すものとしてではなく、林業や農業の分野で人以

外の生物を表現するものとして使用されていたのである。

では、人の年齢を表す“老齢”という新語は、いつ生まれたのであろうか。ここで注目すべき点は、この語の用例数が、1980年以降、激増しているという事実である（表2—❶）。

表2.《人民日报》における老齢の使用例



そして、この1980年を皮切りに、“老齢”は、人の年齢を指す語として用いられるようになる。その例は、次のとおりである。

(3) 问：提倡一对夫妇只生一个孩子，会不会使我国人口**老龄**化，出现劳动力不足的情况？（1980.8.11）

質問：一組の夫婦に子供一人のみと提唱することで、わが国の人口が**高齢**化し、労働力が不足するという事態が起きるのではないか。

(4) 或许有的同志担心：按照这个方案人口一步步地减少下去，会不会产生人口“**老龄**化”，会不会出现被抚养人口增多到劳动适龄人口难以负担的程度？（1980.3.7）

もしかしたらこのように心配する人もいるかもしれない。この

方案に従って人口が徐々に減っていくと、人口の「高齢化」が起きたり、被扶養人口が増加して労働適齢人口が負担しがたいレベルになったりするのではないだろうか。

(5) 未来我国人口发展会不会出现“老龄化”问题？（1980.3.18）
将来わが国の人口の展望として「高齢化」問題が出現するのではないだろうか。

(6) 提倡一对夫妇只生一个孩子后，有些同志提出将来六十五岁以上的老年人占总人口的比重会不会过大，老年人和青壮年人数的比例会不会不协调。这就是所谓人口的“老龄化”问题。（1980.5.27）
夫婦一組に子供一人を提唱した後、将来六十五歳以上の老人が総人口に占める割合が大きくなりすぎたり、老人と青壮年の人数の比率のつり合いがとれなくなったりするのではないかと指摘している人もいる。これがいわゆる人口の「高齢化」問題である。

では、“老龄”という語はなぜ1980年以降盛んに用いられるようになったのであろうか。ここで、1979年に中国が夫婦一組に子供一人という「一人っ子政策」を採用したという事実に注目する必要がある。これは、激増する人口に歯止めをかけるために政府が施行した政策で、生まれてくる子の数を規制するものであった。裏を返せば、それは総人口における高齢者の割合を高めるという結果を引き起こすものであったため[15]、人口の高齢化の出現が予測されたり、危惧されたりするようになる。そうすると、一人っ子政策が布かれた結果、人口高齢化が一つの重要な社会問題として意識されるようになり、そのような高齢化現象を表す際に、“老龄”という語が用いられるようになったのではないだろうか。

このことを裏付けるものとして、上掲の（3）～（6）の例があげられる。

(3)～(6)、すなわち1980年の全ての例は、79年の一人っ子政策の実施を受け、高齢化の出現を懸念したものである。つまり、人に関して用いられる“老齢”が1980年以降の『人民日報』で激増した理由は、一人っ子政策の影響で高齢化社会が問題視されるようになったことにあると考えられるのである。

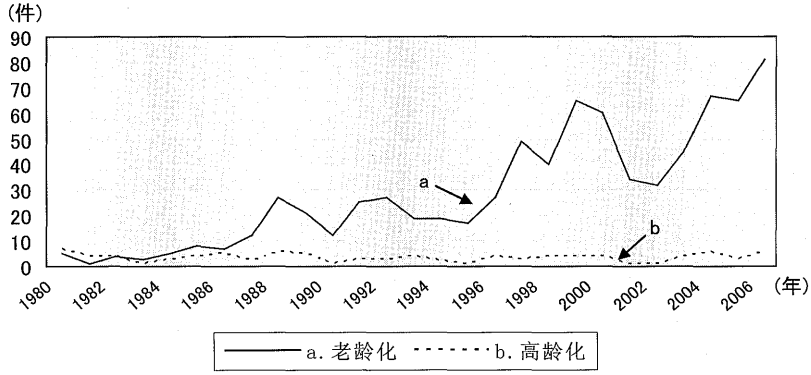
3．“老齢”の定着

以上の背景のもとで誕生した“老齢”は、中国語の中でいかに定着したのか。人口現象の表現として、“高齢”ではなく“老齢”が定着した過程を明らかにしていく。

“老齢”の誕生につながったいわゆる人口高齢化という現象は、早い国では19世紀後半頃から既に起こっていた[16]。すると、1980年当時高齢化社会に入っていなかった中国は、高齢化社会という概念を表す際、それが既に起きていた国の語を取り入れる可能性もあったはずである。日本は1970年に高齢化社会となった[17]。隣国であり、同じ漢字文化圏である日本の使用している語、すなわち「高齢化」が、中国語の中に取り入れられることはなかったのであろうか。

“老齢”と“高齢”では植物の年齢を指すものなど様々な意味の用例が含まれてしまい、人口現象に限定した用例をみるには傾向をつかみにく

表3. 老齢化と高齢化の使用例



いため、ここでは対象を絞り、“老齢化”と“高齢化”を比較する。

表3（前頁下）は、『人民日報』において“老齢化”と“高齢化”が初めて出現した1980年～2006年の用例をグラフ化したものである。表より“高齢化”の使用が認められる。しかし、日本に関する記事では日本語の影響から“高齢化”が使われる可能性が高いので、さらに①日本に関するもの・②中国に関するもの・③その他の三つに分類した（表4）。

表4.《人民日报》(1980-2006) の使用例

	老齢化			高齢化		
	日本	中国	その他	日本	中国	その他
1980-1990	11	65	18	20	4	7
1991-2000	23	254	61	12	8	2
2001-2006	22	250	46	1	12	2

表4をみると、②中国に関する記事でもわずかだが“高齢化”が用いられている。

(7) 所谓人口“**老龄化**”或“**高龄化**”，一般是指六十或六十五岁以上老年人口占总人口比重较高而言的。严格说来，“**老龄化**”并没有一个确切的标准。(1980.3.18)

いわゆる人口の「**老齢化**」あるいは「**高齢化**」は、一般に六十または六十五歳以上の老年人口の総人口における割合がやや高いことを指していっているものである。厳密にいうと、「**老齢化**」にはべつに確かな基準があるわけではない。

(8) 另一方面，人口**高龄化**的过程将加快。由于七十年代以来生育率的下降，少年儿童人口比例降低，到2000年老年人口比例可能上升到7%左右。(1986.12.2)

そのほか、人口の**高齢化**が加速するだろう。七十年代からの出生率の低下により、少年児童の人口比率は下がり、2000年には

老年人口の比率はおそらく7%前後にまで上昇する。

(7)(8)の“高齢化”は、日本の「高齢化」と同義であり、1980年代には日本語と同様に“高齢化”が使われていたことがうかがえる。さらに表4の“高齢化”を注意してみてみると、①・③の件数が時を追うごとに減少する一方で、②の件数だけが年々増えている。なぜこのような違いが生じたのか。“高齢化”の用法に何か変化があったのではないだろうか。用例をみる。

(9) 伴随着人口**老龄化**，人口**高龄化**也日益突出，我国八十岁以上高龄老年人每年以百分之五左右的速度增长。(1996.12.28)
人口の**高齢化**にともない、人口の**超高齢化**も日に日に顕在化してきており、わが国の八十歳以上の高齢の老人は毎年5%前後の速さで増えている。

(10) 我国社会步入**老龄化**的速度非常快。发达国家从出生率出现下降趋势到进入**老龄化**社会，过程一般将近100年；而我国自上世纪70年代到80年代初出生率开始大幅下降，到本世纪初就迈入了初期**老龄化**，过程不过20多年。……据预测，到本世纪中叶，我国60岁以上老年人口将超过4亿，占人口总数的1 / 4左右。今后，还会有向**高龄化**社会发展的趋势，80岁以上高龄人口所占比例也会越来越高。(2004.10.22)
わが国の社会が**高齢化**に入るスピードは非常に速い。先進国家は出生率の下降傾向が出現してから**高齢化**社会に入るまで、普通百年近くかかっている。しかし、わが国は前世紀の70年代から80年代初めには出生率が大幅に低下し始め、今世紀の初めには**高齢化**の初期に入り、その間わずか二十数年しかかかっていない。……予測では、今世紀の中頃になると、わが国の60歳以上の老年人口は4億を超え、人口総数の四分の一前後になるよう

である。今後は、さらに**超高齢化**社会へと発展する傾向があり、80歳以上の高齢人口が占める割合もますます高まるだろう。

上の二例では、“老齢化”と“高齢化”が別の現象を表す言葉として区別されており、“高齢化”が“老齢化”のさらに進んだ状態を示す語として使われているのである。実際、人口高齢化についての専著にも以下のような記述がある。

(11) 日本将其译为人口**高龄化**，我国大多数人使用人口**老龄化**和**高龄化**在程度（ママ）是有差别的。通常把人口中老年人的比例提高的过程称为人口**老龄化**。人口**高龄化**则指人口**老龄化**已达到一定程度，高龄老人在老年人中占到一定的比例，这个比例增大的过程[18]。

日本ではそれを人口の**高齢化**と訳しているが、わが国の大多数の人は、人口の**老齢化**と**高齢化**を使う際には程度により区別している。通常、人口において老人の比率が高まる過程を人口の**老齢化**という。人口の**高齢化**は人口の**老齢化**が一定の程度に到達し、高齢の老人が老人の中で一定の比率を占め、その比率が増える過程を指しているのだ。

つまり、最近では、高齢化の意で“老齢化”が使用され、「高齢者人口の中でさらに高年齢の老人が増える」という超高齢化の意で“高齢化”が用いられているのである。現に1990年以降の②の用例では、20例中17例が、この超高齢化の意となっている。以上から、②において“高齢化”の使用例が増えているのは、日本語と同義の用法が増えたわけではなく、このように新たな用法が生まれたためだといえる。

さて、表3のとおり、“高齢化”は全体としては用いられなくなっているわけだが、これは“老齢”という語が定着し、これまで“高齢化”とされていたものが、“老齢化”と表されるようになったことによると考え

られる。①日本に関する記事では、表4の1980～1990年の“高齢化”の用例数が“老齢化”より多いことからもわかるとおり、日本語の「高齢化」という語の影響で、“老齢化”と訳さずにそのまま“高齢化”と表されることが多かった。したがって、日本で「高齢化」といわれるものが“老齢化”に直されていれば、“老齢化”が定着したことを証明できるのではないだろうか。(以下、下線強調は筆者)

(12) 本报讯　因人口问题而不堪重荷的地球，目前，又面临都市**老龄化**的严峻现实。这是“都市化、**老龄化**联合国仙台会议”发出的警报。……这一从全球规模探讨都市化**老龄化**现象及其对策的国际会议，是由联合国人口司、日本高龄化社会综合研究中心和仙台市共同主办的，于9月12日至9月16日在日本仙台市召开。(1988.9.22)

本紙電　人口問題で負担に耐えかねている地球が、今再び都市**高齢化**という厳しい現実に直面している。これは「都市化と**高齢化**に関する国連仙台会議」が発した警報である。……この全世界の規模から都市化**高齢化**現象およびその対策を討議する国際会議は、国連人口部、エイジング総合研究センターと仙台市が共同主催したもので、9月12日から9月16日まで日本の仙台市で開かれた。

(12) は、日本で開かれた会議についての記事である。会議名に“老齢化”が使われているが、日本ではどのように表現されているのか新聞をあたってみると、

(13) 9月に、国連人口部などの主催で開かれた「都市化と**高齢化**に関する国連・仙台会議」での北京市の報告でも、こうした状況のもとで、敬老と高齢者の権利保護のために、教育の向上と法規の整備が急務だ、と強調されていた。(『朝日新聞』[19]

1988.10.29 朝刊）

とあるようにやはり「高齢化」が用いられている。さらに別の例もみてみよう。

（14）“少子老龄化”是20世纪90年代的日语新词汇，也将是日本在整个21世纪都必须对应的战略性难题。许多学者认为，这事关日本的国力兴衰和稳定发展。（2001.1.6）

「少子高齢化」は20世紀90年代の日本の新語で、日本が21世紀の間対応しなければならない戦略的難題となるだろう。多くの学者はこれが日本の国力の盛衰と安定した発展に関わると考えている。

“少子老龄化”というのも日本では聞かない表現であり、一般に「少子高齢化」といわれている[20]。

このように日本語の「高齢」を“老龄”と表現している例が多々みられる。これより、人口の高齢化の進行とともに“老龄化”という表現が普及し、“老龄”という語が中国語の中に浸透してきたことがわかるだろう。また、表2では、❷2000年に“老龄”の用例が最も多いが、中国はちょうどこのあたりの時期に高齢化社会に入っている[21]。このことからも“老龄”が高齢化現象を表す語として定着したと判断できる。

4．“老龄”定着の要因

そもそも人口の高齢化現象を表すのに数ある語の中からこの“老龄”が選ばれたのはなぜなのであろうか。例えば、『人民日報』では、“高龄”の使用例は1946～2006年まで一貫して“老龄”より多い。それならば“老龄”ではなく“高龄”を使ってもよさそうなものである。本節では、三点から“老龄”定着の要因を考察していきたい。

4-1. “老化”の影響

前述のとおり、中国で高齢化問題に関心が寄せられるようになったのは、1980年代以降である。その時期に出版された人口学の専著に何か手がかりはないかと調べると、

(15) 人口老龄化问题。有人担心，长期一对夫妇一个孩，会引起人口**老化**[22]。
人口高齢化問題。長い間夫婦一組に子供一人であると、人口の**高齢化**を引き起こすのではないかと心配している人もいる。

というように 高齢化を表すのに“老化”が用いられている。中国における初の総合的な人口学辞典[23]では、

人口**老化** (Aging of a population)	人口中老年人比重日益上升的现象。
人口**高齢化**	人口中の老人の比重が日増しに高まっている現象。
发达国家人口**老化**	人口**老化**是发达国家当前面临的一个突出的人口问题和必须解决的一个新的社会经济问题。
先進国の人口**高齢化**	人口の**高齢化**は先進国が目下直面している顕在化した人口問題であり、解決せねばならない新たな社会経済問題である。

と“老齢化”という語はみられず、代わりに“老化”という語が使われているのである。人口学辞典には、世界各国の言語に訳されているものもある。その日本語版と中国語版を比較してみても、やはり“老化”が用いられている。

〔日本語版〕 総人口の中で老人の割合が増加する時、これを人口の

高齢化ageing (aging) という[24]。

〔中国語版〕 当老年人在人口中的比例增大时，我们称之为人口**老化** (aging)[25]。

このほか、老年学の専著[26]に“老齢化”を“老化”と訳す人もいると書かれており、また辞書[27]にも“人口老齢化”を“人口老化”と略称するという記述がみられることから、“老齢化”の類義語としての“老化”の存在がうかがえる。『人民日報』で高齢化の表現に“老化”の用いられている記事を調べると、次の（16）（17）のとおり、1979年、すなわち“老齢化”より一足先に人口の高齢化を指す語として用いられているのである。

（16）但是，由于各种原因，六十年代后，苏联的人口增长率急剧下降，这使得人口年龄结构**“老化”**，劳动后备资源日趋短缺。(1979.6.28)

しかし、様々な原因により、六十年代以降、ソ連の人口の増加率は急激に低下して、人口の年齢構造の「**高齢化**」を引き起こし、労働予備資源も日増しに不足している。

（17）例如，说实行一对夫妇“最好生一个”会使人口**“老化”**。(1979.12.23)

例えば、夫婦一組に「極力子供一人」を実行すると人口の「**高齢化**」が起きるということだ。

上記の例より“老化”が高齢化の意で用いられる時は“人口老化”と表現されることが多いようなので、“人口”とともに用いられた場合の“老化”と“老齢化”の使用例をまとめ、表5とした。

表5.《人民日报》(1946-2006)の使用例			
	人口老化	人口老齢化	人口高化
1946-1979	0	0	0
1980-1990	42	38	0
1991-2000	21	224	0
2001-2006	4	177	0

“人口老化”と“人口老齢化”を比べると、1980～1990年は“人口老化”の使用例が多いが、その後は“人口老齢化”が圧倒的に多い。つまり、初めは“人口老化”も“人口老齢化”と同様によく使われていたが、しだいに“人口老齢化”のほうが多く使われるようになったわけである。

“老化”も“老齢”と同じ新語で、ゴムやプラスチックなどの劣化の意味から、人の年齢が上がっていくことまでをも指すようになった語である[28]。しかし、同じ新語といっても“老化”は“老齢”よりは中国語の中に定着していた。その証拠に、“老齢”が人口の高齢化を表す語として用いられる以前、すなわち1946～1979年の『人民日報』の用例数を比較すると、“老齢”が13件しかないのに対し、“老化”は54件も用いられている。そのうえ、“老化”は、語義が今より限定されてはいるものの、“老齢”よりも早くから辞典に収録されている[29]。

このように、中国語として多少浸透していた“老化”が早い時期に高齢化を表すのに用いられたことが、同じ“老”からなる“老齢化”の定着につながったと考えられる。“老化”が“老齢化”の定着につながるなら“高齢化”に対応するのは“高化”である[30]。“高化”という表現が多く使われていれば、“高齢化”が定着することもできたと考えられるが、表5に“人口高化”の用例がみられないとおり“高化”は一般に用いられない。また、現在“老化”ではなく“老齢化”の使用が増えたのは、“老化”が体の衰えなども指し、意味が広いのに比べて、“老齢化”は“齢”(年齢)があることで、年齢が上がるという限定された意味を示せるからであろう。

4-2. “老”の機能

さて、“老齢”も“老化”も“老”からなる語であると述べたが、この“老”が“老齢”の定着に一役買っている。

“高齢”と“老齢”の違いは、“齢”が二語に共通で年齢を意味しているものであるから、“高”と“老”の相違によるはずである。辞書[31]を引くと、

老〈形〉①年岁大（跟“少”或“幼”相对）
年をとっている。（「若い」または「幼い」の反対）

高〈形〉②在一般标准或平均程度之上；等级在上的。【反义】低　矮
一般の基準または平均レベル以上。等級が上。【反義】低い　背丈が低い

とあり、“老”に「年をとった」という絶対的な意味があるのに対して、“高”は「他と比べて高い」という相対的な意味を持っている。例えば、

（18）由低龄老人照顾**高龄**老人，负担够重，更让老赵担心的是，老人独住，万一夜里出点事可怎么办。（2006.8.11）
低年齢の老人が**高年齢の**老人の面倒をみているため、負担がかなり重いのである。趙さんにとってもっと心配なのは、老人が一人暮らしでいると、万一夜中に何か起きたらどうしたらいいのかということだ。

（18）では、老人を低年齢と高年齢の人に分けているが、“高齢”を“老齢”に換えると不自然である。なぜなら、“老齢”は「年をとった」という絶対的な意味を持っているため、老人という既に「年をとった」という意味のある概念をさらに分類することはできないからである。このため、“老齢老人”という表現がされることはあまりない[32]。また、“高齢”

は必ずしも「年をとった」という意味を持たない。例えば、

(19) 一个是她当时已经是个31岁的**高龄**运动员了，……。(《海峡导报》2002.11.3)
一つには彼女が当時既に31歳の**高年齢の**スポーツ選手だったこと、……。

(19) では、31歳は高齢といわれるような歳ではないが、あるスポーツの選手としての年齢から考えると高いため、このような表現が可能となっている。

以上から“老齢”と“高齢”の違いをまとめると、“老齢”は後に来る語に関係なくそれだけで「年をとった」という意味があるため、常に実年齢が高いものを指している。一方、“高齢”は後ろの語のカテゴリーの中に組み込まれ、その中で「年齢が高い」という意味を持つわけで、本当に実年齢が高い場合もあるし、高くない場合もあるのである[33]。このように“高”と比べ、“老”のもつ絶対的な意味は人口が年老いていくという現象を表すのには明確でわかりやすい。それが“老齢”の定着につながったにちがいない。

4-3. 官用による普及

ちなみに日本でも「老」には「年をとった」というはっきりした意味がある。しかし、「老齢化」・「老齢化社会」などとあまりいわれないのには、「老」という語のイメージもいくぶん関係しているだろう。日本ではこの「老」という語が、あまりよいイメージで捉えられていないようなのである。例えば、

(20) それにしても「老眼鏡」という言葉はつらい。長寿社会で、40歳代から「**老**」とは。行政用語として「老人」を「高齢者」と言い換えている自治体も多い時代だ。……メーカーも気にし

ているようだ。めがねレンズ大手のHOYA（本社・東京）は、遠近両用レンズの新製品発売を記念して、「老眼鏡に替わる新しい名前を考えよう」キャンペーンを始めた。（『朝日新聞』2001.7.8 朝刊）

という記事がある。また、「老い」という語の作る句の多くがマイナスイメージを帯びている[34]という指摘もある。このほか、高齢者を意味する言葉の好感度調査[35]によれば、「熟年」・「高齢者」などに比べ、「老人」・「老女」・「老婆」など「老」という語からなる言葉は好かれていないようである。それでは中国では“老”のイメージがよいのかというと、

(21) 中国文化与英语国家文化中对待年龄的态度存在差异：一般说来，前者敬老而后者嫌老。在中国，**“老”**，“高龄”意味着受到社会尊敬，所以无人忌讳[36]。

中国文化と英語圏の国の文化とでは、年齢に対する態度に違いがある。一般に前者は年をとっていることを敬い、後者は年をとっていることを忌むのである。中国では**「年をとっている」**、「高齢」は社会から尊敬されることを意味しているので、嫌う人はいない。

というよいイメージを訴えるものもあれば、

(22) 在我看来，“老龄”的提法比较消极和沉闷。因为**“老”**字同“衰”、“朽”、“陈旧”、“没落”等词意接近。……综上所述，我觉得把“老龄”改称“高龄”和“乐龄[37]”，似乎更符合现代社会老年人的实际生存状况，也有利于提倡一种更为健康积极的人生态度。（《解放日报》2004.3.21）

私が思うに、「老齢」という言い方はどちらかといえば消極的で重苦しい。なぜなら、**「老」**という字は「衰える」・「朽ちる」・

「古くさい」・「落ちぶれる」などという語の意味と近いからだ。……つまるところ、「老齢」を「高齢」や「楽齢」に変えると現代社会の老人の実際の暮らしぶりにより合いそうで、いっそう健康で積極的な人生に対する態度を提唱するのにも役立つと思うのである。

と否定的に捉える意見もあり、誰もが直面することだけに賛否両論あって、よいか悪いか一概に言い切ることはできない。しかし、上述のようにして選ばれた“老齢”が定着することができたのは、なにより公の機関で用いられ、マスコミによって広まったことによる。人口の高齢化について述べている文献にも

(23) **老齢**（Ageing）一词源于国际会议文件的翻译。1982年，我国参加联合国“**老齢**问题世界大会”时，中文作为官方语言，联合国在发表的中文会议名称和会议文件中都将Ageing译作“**老齢**”。……我国从维也纳会议后出版的会议文件到成立**老齢**问题委员会以及1995年国务院成立中国**老齢**协会，都一直沿用“**老齢**”一词，已经约定俗成，表明“**老齢**”一词已为大多数人所接受[38]。

老齢（Ageing）という語は国際会議文書の訳に由来する。1982年、わが国が国連の「**高齢**問題世界会議」に参加した際、中国語が公用語とされ、国連は発表した中国語会議名や会議文書中においてAgeingを全て「**老齢**」と訳した。……わが国ではウィーンの会議後に出版された会議文書から**老齢**問題委員会の成立および1995年に国務院が中国**老齢**協会を作るまで一貫して「**老齢**」という語がそのまま用いられ、既に長い間の使用により定着しており、これは「**老齢**」という語が大多数の人に受け入れられるものとなったことを表している。

とある。実際に高齢化に関わる政策や機関名を調べてみると、**老齢**问题

世界大会中国委员会・中国老龄问题全国委员会・《中国老龄工作七年发展纲要（1994—2000年）》・全国老龄工作委员会・《关于加强老龄工作的决定》・《中国老龄事业发展“十五”计划纲要（2001—2005年）》[39]のようにやはり日本とは異なり、“高齢”ではなく、“老龄”が多用されている。このことは、表2にみえる近年の“老龄”の使用率上昇に大いに影響を与えているだろう。改革開放後の新語は政治に関する語彙が少ないのが特徴だが[40]、語の定着という面では、政治の影響力は大きいのである。

5．おわりに

以上、“老龄”の誕生と定着、その要因を用例より実証した。“老龄”は、植物などの専門用語から一人っ子政策をきっかけに人口学の術語として多用されるようになった。そして、新語として普及し、人の年齢表現の一つとして定着したのである。“老龄”の定着の要因として、類義語“老化”の存在、“老”という語のもつ絶対的な語義、官用の三点をあげたが、このほかに 近年“大龄”（適齢期を過ぎた年齢）・“低龄”（低年齢）・“银龄”（シルバーエイジ）といった“龄”よりなる語が増え、年齢表現が多様化していることも新語“老龄”が定着した原因の一つに数えられるだろう。そして、これらの要因により、中国語では“老龄化社会”が用いられるようになったわけである。

筆者は前稿[41]でも新語をとりあげたが、そこでは“新干线”という日本特有の乗り物を表す言葉が外来語として受容され、中国において日本にはない比喩的語義を持つようになったことを考察した。一方、本稿では、日本特有の事物からではなく、日中共通の“老龄”という概念から中国の言語文化を探った。“老龄”は、“新干线”という外来語から誕生した新語とは異なり、中国語新語の誕生経路の中でも多くを占める専門用語の一般化した語であって[42]、その研究意義は大きい。また、“新干线”で新語と大衆文化の関わりを考察したのに対し、“老龄”では一人っ子政策という政策の言語への影響を考証し、新語の誕生と定着そして政治背景を明らかにした。この点で、前稿とは異なった、新語にかかわる

言語現象を提示し、新語における日中同形語研究をさらに補うことができると考えている。

なお、本稿では、日・中で「高齢化社会」・“老龄化社会”という異なる表現がみられることに着目し、なぜ中国で“老龄化社会”という表現がされるのかということについて考察したわけだが、日中同形語の成立条件を考えるにあたって、このほかに日本ではなぜ「高齢化社会」といわれるのかというような日本語の観点からも考察を行う必要がある。この件については、今後別途検討していきたい。

注

1　『読売新聞』（2005年10月8日 朝刊）。以下、『読売新聞』は読売新聞記事データベース「ヨミダス文書館」による。

2　「老齢化社会」という語が全くないわけではないが、辞典でも普通見出し語となっているのは「高齢化社会」である。例えば、日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部編『日本国語大辞典』第二版（小学館 2000～2002年）〔以下『日本』と略称〕、松村明編『大辞林』（三省堂 1988年）〔以下『大辞』と略称〕、梅棹忠夫他監修『講談社カラー版日本語大辞典』（講談社 1989年）には「老齢化社会」という見出しはない。『日本大百科全書』（小学館 1994年）には「老齢化社会」という見出しがあるものの、語義は「高齢化社会」にまとめて記載されている。

3　上海译文出版社编译《日汉大辞典》（上海译文出版社 2002年）738頁を参照。なお、中国語にも“高龄”という語はある。

4　日中同形語とは、文字通り日本語と中国語で同形の語を指す。その際、簡体字・繁体字といった漢字の字体の違いは問題にせず、全て同形語として扱う。拙稿『改革開放後の新語における比喩的用法―日中同形語“新干线”（新幹線）小考―』（『藝文研究』90号 2006年）を参照。

5　林殷《“老龄”一词应当废止吗？》（《科技术语研究》2005年第3期）を参照。

6　1946～2000年はCD-ROM版全文データベース《人民日报五十年图文数据系列光盘》（人民日报出版社）を用い、2001～2006年はインターネット上のデータベース、人民网《人民日报报系搜索》（http://search.peopledaily.com.cn/was40/people/GB/index.htm#3　2007年1月20日）を使用した。以下、日付のみの例は全て『人民日報』による。

7　商務印書館・小学館編『中日辞典』第2版（小学館 2003年）868頁。

8　廣東、廣西、湖南、河南辭源修訂組・商務印書館編輯部編《辭源（修訂本）》（商務印書館 1979～1983年）・辞海編輯委员会编纂《辞海》1999年版彩图本（上海辞书出版社 1999年）・汉语大词典编辑委员会汉语大词典编纂处编纂《汉语大词典》（汉语大词典出版社 1997年）・愛知大学中日大辞典編纂処『中日大辞典』増訂第二版（大修館書店 1987年）に“老齢”は収録されていない。

対外経済貿易大学・商務印書館・小学館編『日中辞典』（小学館）には初版（1999年）・第2版（2002年）ともに日本語の「老齢」に対する中国語として“老齢”があげられていない。

一方、大東文化大学中国語大辞典編纂室編『中国語大辞典』（角川書店 1994年）、長谷川良一・相原茂・小峯王親監修『講談社中日辞典』第1版（講談社 1998年）、伊地知善継他編『白水社中国語辞典』（白水社 2002年）、相原茂・荒川清秀・大川完三郎主編『東方中国語辞典』（東方書店 2004年）には収録されている。

ちなみに“高齢”は上述の辞典のうち《辭源（修訂本）》・《辞海》以外には収録されている。

9　中国社会科学院语言研究所词典编辑室编《现代汉语词典》（商务印书馆）〔以下《现汉》と略称〕

10　注7前掲書

11　王均熙・董福光・钟嘉陵编著《现代汉语新词词典》（齐鲁书社 1987年）、闵家骥等编《汉语新词词典》（上海辞书出版社 1987年）〔以下《汉语》と略称〕

12　新語の定義については諸説あるが、本稿では、改革開放後、1978年12月以降、①「今までになく新たにうまれた語」・②「新語義または新用法のうまれた語」・③「近年復活した古語」を指す。注4前掲論文を参照。

13　『日本』第十三巻1159頁には『医語類聚』（1872年）と『経国美談』（1883-84年）の用例が引用されている。

14　『大辞』2582頁。

15　「一人っ子政策」が人口の高齢化を引き起こした原因であるということは、人口学界における一般的な見解である。路遇主编《新中国人口五十年》（中国人口出版社 2004年）〔以下《新中国》と略称〕119頁、天児慧他編『岩波現代中国事典』（岩波書店 1999年） 564頁、若林敬子著『中国　人口超大国のゆくえ』（岩波書店 1994年）123頁を参照。

16　エイジング総合研究センター編『図表でわかる 少子高齢社会の基礎知

識』（中央法規出版 2006年）12頁を参照。

17 『大辞』843頁を参照。

18 中国科学院生物学部专题咨询组编著《老龄化中国：问题与对策》（中国协和医科大学出版社 2002年） 2頁。

19 以下、『朝日新聞』の用例は、朝日新聞オンライン記事データベース「聞蔵DNA for Libraries」による。

20 『朝日新聞』・『読売新聞』の1987年1月1日～2006年12月31日の記事を調べたところ、「少子高齢化」は『朝日新聞』で4666件、『読売新聞』で4834件の使用例があったが、「少子老齢化」の使用例は両紙ともに1件もなかった。このことからも「少子老齢化」という語が日本ではなじみのないことが明らかである。

21 高井潔司・遊川和郎編著『現代中国を知るための60章』第2版（明石書店 2003年）197頁を参照。

22 北京教育学院等合编《人口学基础》（人民教育出版社 1982年）98頁。

23 刘铮主编《人口学辞典》（人民出版社 1986年）180、451-452頁。

24 国際人口学会編　日本人口学会・人口学用語辞典翻訳委員会訳『人口学用語辞典』（厚生統計協会 1994年）37頁。

25 联合国国际人口学会编著 杨魁信・邵宁译 查瑞传校《人口学词典》（商务印书馆 1992年）41頁。

26 邬沧萍主编《社会老年学》（中国人民大学出版社 1999年）11頁。

27 中国大百科全书总编辑委员会《社会学》编辑委员会・中国大百科全书出版社编辑部编《中国大百科全书》社会学（中国大百科全书出版社 1994年）236頁。

28 杨华著《汉语新词语研究》（黑龙江教育出版社 2002年）42頁、《汉语》117頁を参照。

29 “老化”は《现汉》第1版（1978年）に収録されている。

30 张俊良・黄必富《中国高龄化先锋—上海人口高龄化趋势研究》（电子杂志《人口》、http://www.popinfo.gov.cn/popinfo/pop_docrkxx.nsf/v_dzzzwd/27FF26C49EDF2DFF48256FCB000E0891　2007年2月2日）では“人口高龄化”の意で“人口高化”が用いられている。なお、当該論文の雑誌掲載年については、電子雑誌上では確定できず、また紙媒体である雑誌《人口》を実見することもできなかったため、確認できなかった。

31 周行建等主编《现代汉语规范用法大词典》（学苑出版社 1997年）667、351頁。

32 『人民日報』の2001年1月1日～2006年12月31日の記事を調べたと

ころ、“高齢老人”36件に対し、“老齢老人”は0件であった。

33 周洪波主编《精选汉语新词语词典》(四川人民出版社 1997年)〔1978～1995年の新語を収録〕141頁によれば、“高齢”が「ある一定の年齢層の中での高い年齢」という語義を持つようになったのは近年のことのようだが、いずれにせよ“高”が“老”とは異なり、相対的な意味を持っているということを表している。

34 栗原彬「「老い」と<老いる>のドラマトゥルギー」(『老いの発見(1老いの人類史)』岩波書店 1986年)16頁。

35 辻正二著『高齢者ラベリングの社会学』(恒星社厚生閣 2000年)94-99頁。

36 王永学《中国英语学习者在跨文化交际中的文化干扰—从尊老与讳老谈起》(《楚雄师范学院学报》2003年第4期)

37 シンガポールでは、「老齢」の意で“乐龄”という語が用いられており、“乐”には、“安乐”(安らかで楽しい)・“快乐”(愉快である)・“享乐”(享楽にふける)などの意味が込められているという。陈建民著《汉语新词语与社会生活》(语文出版社 2000年)28頁を参照。

38 注26前掲書12頁。

39 注18前掲書17-20頁、《新中国》1412-1456頁を参照。

40 杨华注28前掲書150-151頁を参照。

41 注4前掲論文

42 张志毅・张庆云《新时期新词语的趋势与选择》(《语文建设》1997年第3期)によれば、《汉语》の収録語の約56%が専門用語であり、専門用語の新語に占める割合の高さを物語っている。